

# 江南市総合計画市民会議 議事要旨

## (第1回 全体会議)

日時 令和6年1月11日(木) 9:28~11:32  
会場 江南市役所 第3委員会室  
出席者 出席委員11名

### ■委員

《議長》	加藤 幸治	第1分科会(まちづくり分野・しごとづくり分野) 会長
《副議長》	吉田 勝好	第3分科会(行政分野) 会長
	早川 美紀	第1分科会(まちづくり分野・しごとづくり分野) 副会長
	松尾 昌之	第2分科会(ひとづくり分野・ちいきづくり分野) 会長
	高田 朝子	第2分科会(ひとづくり分野・ちいきづくり分野) 副会長
	中村 健一	第3分科会(行政分野) 副会長
	鵜飼 篤市	江南市総合計画策定部会(まちづくり分野) 部会長
	茶原 健二	江南市総合計画策定部会(ひとづくり分野) 部会長
	石川 晶崇	江南市総合計画策定部会(しごとづくり分野) 部会長
	花木 康裕	江南市総合計画策定部会(ちいきづくり分野) 部会長
	今枝 直之	江南市総合計画策定部会(行政分野) 部会長

### ■傍聴者

2名

### ◆議題

- 1 自己紹介
- 2 市民会議(全体会議)の進め方
- 3 議長・副議長の選出
- 4 議題  
(1) 後期基本計画(案)について
- 5 その他

#### <配付資料>

- 資料1 江南市総合計画市民会議委員名簿【全体会議】
- 資料2-1 江南市総合計画市民会議について【概要】
- 資料2-2 江南市総合計画市民会議設置要綱
- 資料2-3 市民会議のスケジュールについて
- 資料2-4 市民会議(全体会議)の進め方
- 資料3 第6次江南市総合計画後期基本計画(案)
- 参考資料 江南市総合計画市民会議(分科会)分野別計画(案)の対応結果について

### ◆会議結果

- 1 開会

秘書政策課長より挨拶

## 2 自己紹介

各委員から自己紹介

## 3 市民会議（全体会議）の進め方

資料2について事務局より説明

## 4 議長・副議長の選出

江南市総合計画市民会議設置要綱に基づき、委員の互選により加藤幸治氏が議長に選出され、議長の指名により吉田勝好氏が副議長に選出されました。

## 5 議題

### （1）後期基本計画（案）について

（議長）議題（1）「後期基本計画（案）について」、事務局より説明をお願いします。

（事務局）～ 資料3（第1章「はじめに」）について事務局より説明 ～

（議長）ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

（委員）P.4の「新たに取り入れた考え方」について、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の考え方を取り入れたことはとても良いと思う。

P.5の下段のSDGsの記載例について、ゴール5が含まれていない。ジェンダー平等については、ひとづくり分野に含まれると思っていたが、実際は行政分野の中にある。市の考え方として、ジェンダー平等については、どの分野で取り組む内容なのかはっきり決めてほしい。

（事務局）P.5は、記載例として市長の戦略政策と分野別計画の1番目の内容を掲載しており、両方ともゴール5が含まれない内容となるため、記載例にゴール5の表記はありません。参考資料のP.3に、第2分科会での意見対応が掲載されていますが、そこでは、ひとづくり分野とちいきづくり分野では、ゴール5の掲載が1カ所しかないので、ひとづくり分野全体として大切な考え方だから取り入れてほしいとのご意見をいただきました。SDGsのアイコンについては、国の示す指標を参考に、江南市において関連する取り組みや指標設定をしている政策に表記することとしています。

SDGsのゴール5が入っている分野・柱は、「分野Ⅱ・柱5子育て」以外には、「分野Ⅲ・柱1商工観光・雇用就労」、「分野Ⅴ・柱2政策・人事」、「分野Ⅴ・柱4男女共同参画」の3つの取り組みにおいて表記をしています。

記載例には、ゴール5の記載がありませんが、表記がないゴールについても、関連して取り組んでいきます。表記については、先ほど説明した基準で整理したものになります。

また、計画書には、記載例という見出しをつけさせていただきます。

（委員）計画の概要部分は、前期計画でも同様の内容なのか。

（事務局）同様の内容を要約して掲載しています。

（委員）分からない用語などもあるが、分科会で事務局からそのような用語は巻末に用語集で掲載すると説明があった。市民にとって分かりづらい用語などは、印などを付けて、巻末の用語集に誘導するような形にしてほしい。

（委員）P.6で江南市は「生活都市」を掲げているが、他市ではどのような都市を目指しているのか。

（事務局）他市では、例えば全世代の健康寿命を伸ばし、健康推進に取り組む「健康都市」や、観光資源があるところは「観光都市」などを掲げているところもあり、その地域の強みや目指すまちの将来像などを総合計画の基本理念としていることが多いと思います。まちづくりの基本理念については、他市でも子どもから大人までの取り組みや地域の強みなどが整理され、3つから5つ程度の柱で、全体的に広く取り組んでいく形で構成されていると感じています。

- (委員) 活字にすると行政としても、こういう書き方になるのはよくわかる。内容を理解するには、個人差があり難しく、こういう書き方もやむを得ないと思う。
- (事務局) 最近では、他市の総合計画の基本構想に入っているかは分からないが、カーボンニュートラルや ICT、サーキュラーシティなどのキャッチフレーズ的なものを取り上げられていると感じます。分かりやすくするために略語やカタカナ言葉などを追加しても、なかなか多くの人に分かるかという結局説明が必要になると思います。
- (委員) カーボンニュートラルについても、社会的にはよく言われているが、聞いたことはあるけど、細かいことまでは分からないと思う。用語集には、市民が理解できるような言葉使いで説明をお願いしたい。
- (委員) P. 7 の下段「協働の基本的な考え方」の「協働の担い手」に、「大学生」もしくは「活動団体」のようなものを入れられないか。「市民」の後の括弧内に「個人・家庭」と書いてあるから、ここに含まれるのではないかという解釈もできるが、参考資料にあるとおり、第2分科会で、もっと積極的に大学生のボランティアを様々な分野で、活躍できるような体制づくりをしてもいいのではないかという意見があった。
- 私もそれには基本的に賛成で、そもそもこの市の総合計画のキーワードの中に、市民協働というものがあるわけだから、様々な人達の参画を求めていくという方向性はとても大事だと思う。
- 今の能登半島地震を報道で知る限りだが、高校生がいろいろ頑張っている。そういった若い人の力をどのように活用していくかという工夫が、必要だと思う。
- 協働の担い手に、大学生だけでなく、成人年齢が引き下がったので、高校生についても明記してもいいのではないか。「など」の中に入れてしまうには弱い気がする。
- (委員) 今の市民協働に関しては、第3分科会でも、結構意見が出た。江南市の取り組みの中で、市民が政治に参加する、行政自体に参加するみたいな機会が少ないというか、そこが課題じゃないかというような議論があった。
- 実際にそういう活動を行っている方も委員として参加されていたが、団体として活動するにあたり、その活動をサポートする仕組みがなく、活動を継続していくことが難しく、やめたというような意見もあった。
- 基本構想に「市民協働」という考え方が入っていること、また、第3分科会での議論も踏まえて、改めて市民がよりまちづくりに参加しやすくなるような取り組みを行っていないといけないのではと感じた。
- 今回の能登半島地震を見ていると、市役所の職員も被災をされており、やはり市民の協力がなければ、おそらく災害復旧は成り立っていかないと思う。そういったことも踏まえて、改めて市民協働というところは、きちっと考えていきたいと感じた。
- (事務局) 基本構想については、議決案件となっており、今回の改訂では見直しを行う部分としていません。そのため記載内容の修正は行いませんが、第2分科会では、大学生や高校生のまちづくりへの参加や、防災訓練への参加を促してはどうかなどの意見がありました。行政だけでは進めていくことができないこともあるので、市民がよりまちづくりに参加しやすい形を、基本構想ではなく、分野別計画や実際に取り組んでいく事業の中で取り入れていくことができないか考えていきます。また、市民会議でこうした意見があったことを、庁内にも共有していきます。
- (委員) 大学生や高校生の力を発揮してもらおう場を考えていくと、ボランティアになると思う。現在の状況は詳しく分からないが、他の委員の意見では、市民のボランティア活動が上手くいっている市では、市役所の各課が関係しているボランティア団体やグループを一元的に管理している。一元化することで、学生ボランティアなどを、こっちで協力してもらったら、今度はこっちの方も頑張ってもらえないかというようなアレンジがしやすいと思う。

それから、市の外郭団体や民間業者の中でも、もしかしたらボランティア団体などを活用してもらおうところがあるかもしれないし、そういう情報もキャッチして、集約化しておく、非常に機動性に富んだボランティア活用ができる体制を作れるのではないかな。

基本構想の中では出てこないと思うが、どこかでボランティアの活力を生かす体制づくりや、司令塔を作らないといけないということは、押さえておいてほしい。

(委員) まちづくり関係の場合は、「自助・公助・共助」の考え方があがるが、基本的に「共助」の部分が大切だと思う。災害関係ではないが、例えば、エネルギーの関係の分野で、学生が集まってネットワークを形成し、取り組んでいる事例もある。災害関係についても、そのような集まりなどを持っている学校などが江南市にもないだろうか。

(委員) 私たちも活動するにあたって、ボランティア団体を探している中で、古知野高校が福祉ボランティアを部活動で行っていることを知った。また、イベントへの協力をある高校へ依頼したが、学校側で断られてしまった。

ボランティア活動に関する組織づくりを市がやっていただけると、そういったことがクリアできるかもしれない。

(委員) 今の能登半島地震では、一般の人がボランティアで行きたいと思っても、かえって迷惑がかかるので、控えるようにと言われている。各市でボランティア活動のネットワークをきちっと作っていかないといけない。防災関係のボランティアでは、結構若い人たちが行きたいと思っている。

例えば江南市で災害が起きた時に、若い人たちも動いていただければいいと思う。今回の地震のこともあるので、江南市自体も防災などを踏まえて、何か検討してほしい。そのためには、市民の意識改革も行わないと難しいと思う。総合計画の中では難しいかもしれないが、行政の中で考えていただければ、江南市のためにもなる。いざとなった時には、昔は互助の精神と言って、お互い様とか、お隣が何か困っていたら助けるとか、東日本大震災の時でもそうだが、そうした経験がある人たちが、今回の能登半島地震にボランティアで助けに行くとか、そういう精神が備わってきている。今これだけ困っている現実を見ていると、江南市も、各市町村も考えていかないといけないと思う。

(議長) 他にご意見はありますか。特にないようですので、次の第2章について事務局より説明をお願いします。

(事務局) ～ 資料3 (第2章「改訂の考え方」) について事務局より説明 ～

(議長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委員) 13 ページの第3節前期基本計画期間の成果と課題について、90%以上晴れ、70%以上曇り、70%未満雨は、一般的に民間企業で考えると、達成していないのになぜ晴れになるのかという違和感がある。これは、捉え方を間違えると、90%を達成したらもうそれでよしと捉えかねない。晴れは100%以上にすべきではないかと思う。

ちなみに、民間企業からすると、120%以上が晴れ、100%が曇り、80%未満が雨とか、そんな感じの評価の仕方をする人が多い。

(事務局) 行政評価の判定区分についてですが、目標値に対して、100%達成できなければ達成と言えないのではないかとこの考えはもちろんあるかと思えます。市では、毎年度内部評価として施策評価を行っており、戦略計画(第5次総合計画)でも同様でしたが、第6次総合計画の策定時での検討の中でも、評価軸としては、この天気マークの基準で整理をしていくこととされましたので、第6次総合計画の期間においては、この基準で継続して整理を図っていきたいと考えています。目標値に対して、100%を超えたら達成ではないかという指摘については、次の第7次総合計画での検討課題としたいと思えます。

(委員) この基準は国の基準などに準拠しているのか。

(事務局) 国の基準に準拠したというものではありませんが、最近では計画策定の際に KPI (重要業績

評価指標)の設定が重要視されており、評価時にはその指標に対する結果として達成の程度を確認されていると思います。

- (委員) 確かに9割達成を目標とした中で、100%達成したとなると、おそらく現実離れしてしまう。そこは無理に変える必要はないと思うが、例えば次期計画を策定する時には100%の数値をきっちり目指していく形の方が、市民が見ても分かりやすいと思う。
- (委員) 120%の目標設定はシビアと思うが、その方向性の方があるべき姿だと思う。90%でもいいが、そもそも目標の設定が甘くなるのではないかと思う。
- 13ページの目標達成状況について、全分野の全体目標達成率は74.6%で、14ページの市民満足度の変化の状況で、満足度が向上したものが41%、低下したものが59%となっている。この結果について、全体目標の達成率が74.6%なのに、満足度が向上していないものが59%であるのは、整合性が取れていないのではないか。
- (事務局) 全体目標の平均達成率74.6%については、例えば、ある指標が計画策定時に満足度が30%であったものを、今後、40%まで上げるという目標値とした場合、10%上げる必要がありますが、仮に実績値が37%だったとすると、目標値が40%なので、100%にはなりません。その結果、達成率は約90%という結果になりますが、初め30%だったものが、37%に上がったので向上したことになり、14ページの表では、向上に含まれます。しかし、目標として40%を掲げてしまうと、40%に満たないので、達成率としては100%にならない仕組みになっています。そのため、平均目標達成率のパーセンテージと、向上・低下データの見方というのは、必ずしも一致するものではありません。
- (委員) 市民満足度調査の結果、満足度の平均達成率は、そこそこ高かったが、向上した項目数は少なかったということか。
- (事務局) そのとおりです。
- (委員) 見方について、市民がわかるようにしてあげないと、今のような疑問になる。
- (事務局) 少し解説的なものを記載するよう検討します。
- (委員) 今までより良くなっているので向上している、というような内容であれば分かりやすい。例えば、合格や不合格。その場合微妙な評価をどうするかは課題になるが、表現の仕方など検討してほしい。
- (委員) 4ページの文章の最初の「わが国」、11ページの「3安心・安全な生活へのニーズの高まり」の文章の最初の「我が国」の表現にばらつきがある。12ページの「5持続可能な開発目標(SDGs)実現に向けた取り組み」文中では「日本」になっている。他にもあるかもしれないが、字句の統一をした方がいい。
- (委員) 11ページ下段の「レジリエンス」については、一般的に通用する言葉なのか。
- (事務局) カタカナ言葉や難しい用語については、印を付けて、用語集に掲載をしていく方向で考えております。
- (委員) 次回の会議では、前期基本計画期間の成果と課題についてより詳しく検証するのか。
- (事務局) 3分科会で議論した内容になりますが、分野を跨いで意見があれば出していただいて、その意見を担当課に照会して対応結果をまとめることになります。
- (委員) 次回の会議で終了となるが、対応結果の報告はどうなるのか。
- (事務局) 対応結果につきましては、会長に確認の上、次回の会議の後、委員の皆さんに結果を報告させていただきます。
- ～ 資料3(第3章「後期基本計画」)について事務局より説明 ～
- (議長) 今日資料をいただいて、意見や質問をするのは難しいと思うので、また会議時間も長時間に渡っているため、委員の皆さんには、一度資料を持ち帰ってもらい、自身の分科会以外の分野を見ていただいたりして、全体的なご意見を考えていただきたい。
- 次回が最後の会議となるため、全体的な意見をまとめる。事務局からの説明を踏まえ、自身

の分科会以外の分野での質問、全体的に取り入れたらいいと思うこと、表現を変えた方がいいと思う文章などがあれば、次回提案していただきたい。

## 6 その他

### 次回以降会議日程について

(事務局) 次回全体会議は、1月24日(水)午後2時から市役所第3委員会室で開催します。

事前に開催通知と事前配付資料があれば送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

## 7 閉会

議長より挨拶

以上